

百五里 (4) マラソンを通じての民間交流 深田晃二

◆ 第5回交流会 ◆

先週9月23日～25日の3日間、韓国一山湖水(일산호수・イルサンホス)マラソンクラブから11名のお客を迎えて、尼崎アルカイックホテルを拠点に私の属する尼崎走ろう会(以下:ARC)との第5回交流会を行ったので報告する。

これまでの交流は交互訪問形式で4回行った。

- 第1回 2003.11 来日12名 西宮マラソン
- 第2回 2004.4 訪韓10名 一山湖水マラソン
- 第3回 2006.4 来日18名 芦屋マラソン
- 第4回 2009.10 訪韓 9名 仁川大橋マラソン

2002年8月、先方からの突然のメールをきっかけにはじまったこの交流会の記録は「むくげ通信203号、204号、237号に「百五里」シリーズで掲載してきた。

◆ 「むくげ237号」での予告 ◆

『次は受け入れる番だが、先方の希望は「六甲山を走りたい」だ。2年以内の気候の良い時期に六甲山と一緒に走りたいと思っている』と、むくげ237号で書いていたが、それから既に2年近くが経過した。

日韓の走ることが好きなクラブ員同志の交流である。2～3年おきの不定期開催であるから今年でなくても良かったが、主催するARCの事情もあり、年明け早々から9月23日とターゲットを定めて受け入れ準備に取りかかった。

◆ 六甲山縦走コース ◆

六甲山には須磨浦公園から宝塚まで56km勤労者六甲全山縦走路が整備されている。歩かれた方も多いと思う。全縦走は早朝から夕刻までと、時間が掛かりすぎる為今回はあきらめて、景色の良い西コース(須磨浦一市が原)の「半縦走」に決めたのは3月頃であった。

須磨浦公園から6時間で新神戸駅北の「市が原」まで走れば夕方からの懇親会が可能となる。若い幹事達が山経験豊富なランナーの意見を聞いて計画を練ってくれた。そして5月連休から試走を開始した。

私も第1回試走に参加したが、厳しい山の上り下りで太もも内側が痙攣し始め、あえなく「鵠越駅」でリタイヤし電車帰宅と相成った。全山経験者なのに年齢と練習不足を感じ結構ショック、いつかりベンジ!

来日する客人も同年齢以上の方が多く、全員が走るのは不可能と考え、「半縦走」のさらに半分の「4分の1縦走」の歩き組コース(なんのことはない、ハイキング)を設定し、私はそちらへ回ることにした。

「走り組」須磨浦公園～市が原～布引の滝

「歩き組」須磨浦公園～妙法寺小～バス・電車

～新神戸駅～布引の滝

◆ 宿泊ホテル・宴会場 ◆

ホテルは受け入れ側が段取りする前例に従って準備に入った。安くて近いホテルが良い。さすが地域のクラブARC! ホテルと強い人脈を持つ人があり、A

RCが少し補助する事で尼崎市内最高級の都ホテル・ニューアルカイックを準備することが出来た。

今回の交流ではこのホテルを大いに活用し、23日の歓迎夕食ビアガーデン、メイン行事である24日の懇親会を行ったが、軽装のランナー(ウォーカー)を気持ちよく受け入れて頂き感謝している。

◆ 空港出迎えと歓迎夕食会 ◆

前回訪韓会員の一人から、バスで空港に出迎えて頂いた恩返しをしようと提案があった。その上 29人乗りマイクロバスと大型免許を持つ弟さんを運転者として派遣してくれることになった。当日出迎えに向かうARC会員12人は、バスの中で即席韓国語勉強をしながら行ったと言う。25日観光時のバスも同様に準備して頂いた。個人の好意に甘えながらではあるが交流体制が出来て上がって、準備は完了したと実感した。

空港で再会を喜び合い、歓迎花束を渡してバスでホテルへ。23日は秋分の日で祝日ではあったが、私は仕事の為ホテルで待ち受けての再会となった。



2011年9月23日 ニューアルカイックホテルでの来日歓迎

鄭成玉訪問団長は今回も元気な姿で会員を引率されて来られた。来日が複数回の人7名、初参加者は4名と少しづつ新陳代謝が始まっている。ARC出迎え側も今回初参加の若い人が増え、活気あふれる来日歓迎行事となった。

◆ 9月24日六甲山 ◆

日本全国を荒らし回った台風15号の後の澄み切った空気の元、予定通り須磨浦公園に全員集合



須磨アルプスの走り組



した。準備体操の後、そろって出発。最初のピークから見る眼下の海釣り公園や須磨海水浴場はじめ明石海峡大橋、神戸空港、神戸大阪の町等々がクリアに見えて皆の目を楽しませてくれた。

当初の申告では全員歩き組であった韓国側から、当日2名(夫婦)走りたいとの希望が出た。急遽、通訳できる会員と共に3名走り組に変更。一方走り組であった80歳の男性が歩き組に変更。体力的には大丈夫だが、今回は時間制限(懇親会)がある為、念のため自主的に歩き組に回って貰った。この人が歩き組のトップゴールであった。

旗振山で韓国女性一人が走りから歩きに戻られた。夫婦で走り組に変更されたのだが、のっけからの鉢伏坂道で自信をなくされたのであろう。

不案内な山の中に客人女性一人で残すわけにはいかず、当初の手はず通りコースになれた会員一人と一緒に歩き組を待ち、合流後その会員は走り組の後を追った。同じコース設定にしたおかげでこのような変化にも対応出来たのである。

最終的に走り組19名、歩き組23名、合計42名の六甲山半縦走&1/4縦歩であった。

通訳として参加の友人が梅尾山上り350階段でバテて遅れ出し、須磨アルプスで後続にいないことに気付き慌てて迎えに一人引き返すハプニングがあった。日頃の運動不足をしきりに反省しこれからは・・と昼食時に宣言していた。この辺りの山は携帯電話が通じるので大助かりだった。

歩き組は妙法寺からバスと地下鉄で新神戸駅に行き、布引の滝まで再度歩いた。台風の余録で見たこともない大水量の勇壮な雌滝・雄滝はまさしく瀑布(竽笠)であり堪能して貰うことが出来た。

◆ 9月24日 夜の懇親会 ◆

天然温泉でサッパリして、懇親会場のホテルへ



電車で帰着。待望の交流会のメイン行事である懇親会、総勢46名の大宴会である。

5回の交流で行ったり来たりした人数は既に60人に達した。六甲山に行けなかった会員たちも揃い、互い

に再会を喜び合い握手し乾杯する光景があちこちに出現した。若い人たちにとっては感動と出会いの場となった事であろう。

2次会のカラオケで両国の歌を熱唱し、10時に4名は2ヶ所のホームステイ家庭へ向かった。

◆ 9月25日 観光 ◆

姫路城は工事中であったが先方の希望もあり行った。行楽シーズンで結構な人出であった。工事中の大屋根を見る為のエレベーター待ちで30分以上費やしたり、城内展示物がホコリを避ける為撤去してあったりでもう一つ見所に欠けた。天守閣の屋根上のシャチの説明を求められ「雄大



さ」と説明すると「虎や獅子の方が雄大では?」といわれた。調べてみると「龍の頭を持ち体は魚、口から水を吹き天守を火から守る」のだそうだ。水で建物を守る想像上の動物は韓国にもいたぞ。

書写山円教寺に登るロープウェイから古代米田園アートの姫路城全景を見て豪華を晴らした。

「クリスチャンだが寺に入ても良いか」とか「お寺には女性の坊さんはいるのか」などの質問が飛び出して、久しぶりに韓国語の洗礼を受けたためか月曜日には知恵熱が出た。女性のお坊さんを「比丘尼：비구니」と同じ言葉で呼ぶことを知った。

5時過ぎに大阪の宿を目指してバス出発。鄭成玉さんの千日前の定宿である。この日も運転担当してくれた弟さんは、今次ARCが気に入り、奥さん共々ARCに入会する事を確約してくれた。

◆ 第6回は ◆

千日前では、再会を誓いながらの別れとなった。年を取り次回の約束に自信が持てない事が感傷的にさせる要因だろう。2~3年後の第6回交流には私も是非行きたい。今後は若い人たちが積極的に主導し参加することを期待しながら。(終)